

周波数ひっ迫対策のための国際標準化連絡調整事務 平成25年度継続評価結果

(5点満点)

案件名	実施期間	主な評価コメント	評価
次世代移動通信の国際協調に向けた国際機関等との連絡調整事務	H24-H27	<ul style="list-style-type: none"> ・ITU-R、APG、AWG会合に多くの寄与文書の作成発表を行い、国際標準化活動について求められる成果を達成した。 ・平成25年度はWP5Dが札幌にて開催とのことであり、日中韓の協調を含め、十分よい成果を上げることが期待される。 ・IMT-Advancedとして、3.6-4.2GHz、4.4-4.9GHzを提案しているが、これらの周波数帯の使用について、まずはアジアにおける協調が大切である。 	4.8
79GHz帯等を用いた移動通信技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H24-H27	<ul style="list-style-type: none"> ・79GHz帯レーダーや700MHz帯ITS無線システムは、安心安全な自動車社会を構築する上で重要な課題であり、本案件はこれまでの目標達成及び計画とも妥当である。 ・700MHz帯の車車間・路車間通信の国際連携は非常に重要と考えるので、欧州等への働きかけに努めてほしい。 ・帯域の確保という点ではよいが、方式も含めた海外連携を進めて、真の国際標準化活動を進めてほしい。 	4.5
Cospas-SarsatへのPLBビーコン制御技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H22-H25	<ul style="list-style-type: none"> ・JC-26、EWG-1/2013に参加するとともに、米国のNASA、NOAA、USCG等を訪問し、日本の技術が含まれたビーコン制御技術に関わる寄与文書を作成、入力し、そのミッションを果たした。 ・米国、フランス、英国等の他国間調整を行うものであり、本案件の重要性に対して計画や予算も妥当である。 ・技術が進んでいる日本として、関係国を巻き込んでいけるよう戦略的に進めてほしい。 	4.3
次世代GMDSS(全世界的な海上遭難・安全システム)の要素技術の国際標準化	H24-H28	<ul style="list-style-type: none"> ・成果及び今後の計画、体制等は妥当である。 ・IALA、ITU、IMOなどで我が国の意見が反映され、一定の成果が出たと言える。 ・次世代GMDSSの検討は長期計画であることから、IMOの検討ステップに対してどのような戦略でGMDSSの見直しに我が国の技術を反映させるかについて検討していただきたい。 	4.4
移動体向け地上デジタルマルチメディア放送システムに関する国際標準化連絡調整事務	H23-H25	<ul style="list-style-type: none"> ・ITU-R WP6A会合に向けた日本寄与文書案が作成されたことは、一定の成果を上げたと言える。 ・移動端末向けマルチメディア放送システムにおける混信保護比などの技術基準を策定することは重要である。 ・マルチメディア放送システムの混信保護比に関する国際勧告化を目指し、ITU-R会合に寄与文書にて提案を行う体制と実施計画は妥当と認められる。 	4.1